

第10版第2刷で訂正した箇所、「溺水」および「偶発性低体温症」に関する記載ですが、不適切な記載がありましたので、下記の通り再度訂正いたします。

p.813 左段上から11行目

誤：

37°Cから20°Cまでは、体温が1°C低下するごとに代謝は約13%低下するため、酸素需要量が低下して生存の可能性が延長される。

正：

体温が1°C低下すれば酸素消費量はおよそ6～8%減少するため、低体温を伴う溺水では、低いし無酸素状態での生存時間が延びる場合がある。

p.821 右段下から3行目

誤：

37～20°Cまでは、体温が1°C低下するごとに代謝は約13%低下するため、酸素需要量が低下して生存の可能性が延長される。

正：

体温が1°C低下すれば酸素消費量はおよそ6～8%減少するため、低体温では低いし無酸素状態であっても生存時間が延びる場合がある。

なお、関連する下記の2箇所につきましては、変更はございません。

p541 左段下から4行目（「4章 14 体温上昇」）

「体温が1°C上昇するごとに全身の代謝は約13%増加し…」

p636 右段9行目（「5章 11 感染症」）

「…1°Cの体温上昇で基礎代謝率は約13%増加する」